

司馬遼太郎と軍師・黒田官兵衛

麗澤大学教授、評論家
松^{まつ}本^{もと}健^{けん}一^{いち}

- *軍師で一番人気の黒田官兵衛
- *もともとは目薬屋だった黒田家
- *先が見通せない時代に必要な情報
- *戦国と幕末に起きた大きな意識変化
- *ナンバー2に光を当てた司馬作品
- *リアリストでなければ生き残れない
- *人材を集めて任せるのが良いリーダー
- *賢人だけではリーダーにはなれない
- *混乱の時代に軍師の役割は大きい
- *大河ドラマは女性路線がメイン



柴生田 新年あけましておめでとうございます。（拍手）今日は1年半ぶりぐらいになりますが、松本先生においでいただきました。ご存じのように今年の大河ドラマは黒田官兵衛でございます。先ほど伺いましたら昨日関ヶ原においてになったそうです。主演が岡田准一です。去年は同志社の桜がたいへん話題になりました。今年は黒田官兵衛が改めて焦点になると思います。

松本先生は司馬遼太郎についてはいくつかご本も出されております。日本という国の形がどうなっていくかということと考えますと、昨年後半は安部首相が自分の思いをいろいろ発揮するような形になりまして、ちょっと心配な方もいらつしやいます。特に戦前戦中から敗戦まで

の状況を考えてとき、いろいろなことが考えられるわけで、日本の国のあり方をわれわれはもう一度考え直さなければいけないという感じがいたします。

松本先生は日本の近代思想について、ほかの方とは違う視点からいろいろご著書もございませう。今日は最新のご著書の販売もございませう。じっくりお読みになって今年をスタートさせるのもいいのではないかと思います。それでは松本先生、よろしく願います。（拍手）

松本 皆さんこんにちは。松本健一でございます。ご紹介がありましたように一昨日から昨日にかけて関ヶ原と大垣城あたりを散策してまいりました。実際に足を踏み入れてみないとわからないことがいっぱいあり、本からの知識で